



発行：事務局 〒162-0066  
東京都新宿区市谷台町 14-5  
MSビル市ヶ谷台1F

編集：全難聴事務局  
電話：03 (3225) 5600  
FAX：03 (3354) 0046  
URL：<https://www.zennancho.or.jp>  
E-Mail：zennancho@zennancho.or.jp

## 📌 全要研・全難聴の定期協議会を開催

9月3日 13:00～16:00、ウィルあいち（愛知県女性総合センター）に於いて、標記の協議会が開催されました。

参加者は、（全難聴）宿谷理事長、藤谷理事、宇田川副理事長。（全要研）山岡理事長、松井事務局長、長尾理事の6名です。議題は下記のとおりです。

### 1. 要約筆記事業における課題整理と情報交換

- 1) 音声入力の今後について
- 2) 各地の養成・派遣の課題

→音声認識の普及に伴い、現在の要約筆記とどう両立させて行くかを話し合いました。第3のツールとして、要約筆記者がその場の音声聞き、音声認識ソフトを使ってリスピークしていく方法があります。6月の全要研集会分科会でも取り上げました。文字量の多さや単語、文節での変換を要約筆記者が調整することで、読みやすくなるが、まだ課題も残るため、全要研で検討中です。

### 2. 国政レベルの動きに対応した両団体の行動について

→2024年に障害者差別解消法改正があり、法律ができれば自治体は条例を作る。両団体でモデル要望案を作ることになりました。

### 3. 両団体の年次大会・集まりでの連携について

4. 要約筆記者養成カリキュラムとテキストの見直しについてなどを話し合いました。全要研からは、全要研WAM事業とパソコン要約筆記の読みやすさの研究について全難聴に協力の依頼がありました。

## 📌 JDF（日本障害フォーラム）第3回政策委員会

9月19日、標記委員会が戸山サンライズ（東京）で行われました。

この会議では、「障害設問を取り入れた国民生活基礎調査の結果と今後の課題」というテーマで長野保健医療大学 北村弥生特任教授によるミニ講演が行われました。この調査は厚労省が大規模調査を3年ごとに、簡易調査を毎年行うものです。

今回注目すべき点は、昨年の大規模調査時に初めて「日常生活における機能制限」の設問が入った点です。しかし自己申告による調査のため、まだ確実性が低く、今後の改善が待たれるとのことでした。

興味のある方は下記 URL をご覧ください。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>

### 📌 第3回障害者による情報取得利用意思疎通の法律における協議

9月22日13:30～15:10まで、標記の会議がオンラインで開催され黒田副理事長が出席しました。

今回3回目を迎えた会議の前半は、社会福祉法人日本視覚障害団体連合会並びに社会福祉法人全国盲ろう者協会から、障害当事者団体としての困りごとや要望等についての説明があり、続いて後半は企業の機器による支援の取り組みやサービス内容などについて（株）シュアルタとfreee（株）から説明がありました。

当事者からの切実なニーズと、それに応えて機器やテクノロジーで支援する企業の発表を受けて、後半は、質疑応答です。

見えない・見えにくい、聞こえない・聞こえにくいという障害には、情報を取得するに当たり、いかに多くのバリアがあるか、そのバリアをなくすためには、機器によるどのような支援やサービスが効果的か、といったことが話し合われました。

当事者の要望に対応する企業の支援や機器開発に、現時点ではハードルや限界があるようです。

情報アクセシビリティを充実させるためには、国と企業がタッグを組んで、末端の人たちにも役立つ機器の開発を推し進め、その機器の使いやすさを追求していく必要性を感じました。

### 📌 国土交通省「障害者等の避難誘導に係る意見交換会」報告

9月1日（金）に国土交通省による「障害者等の避難誘導に係る意見交換会」がオンラインで開催されました。障害当事者団体から9団体、鉄道事業者から23団体が出席し、全難聴からは神矢理事が出席しました。

まず、災害発生時の避難に関して障害当事者からの要望や鉄道事業者からの課題が提起されたことに基づき、論点の整理がなされました。その結果、「障害の種別による留意事項」「災害及び避難が必要となった場所の違いによる留意事項」「避難する際の障害者等に係る誘導の考え方」「消防、自治体、駅周辺機関等との連携・協力にあたっての留意事項」「鉄道利用者等への協力依頼の方法」「障害者、関係者等が参画した避難訓練の実施」がガイドラインの骨子として盛り込まれることになり、今回はさらに「議論の対象とする災害の種類」「議論の対象とする避難が必要になる場所」「連携・協力を行う駅周辺機関等」「利用者に対して協力依頼をする対象」「効果的な避難訓練の実施」について議論していきました。

全難聴からは、駅周辺のみではなくさまざまな福祉機関との連携も必要ではないかといった意見を提起しました。今後はこれに基づいて調査がなされ、再度意見交換会を開催してガイドラインをまとめる予定となります。

### 📌 世界患者安全デーJICA ホームページに国際部の活動が掲載

～草の根技術協力事業～ネパールの病院で難聴者が安心して医療サービスを利用できるように、「意思疎通支援体制」を構築することを目指しています！

[https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2023/1517697\\_14652.html](https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2023/1517697_14652.html)

## ↑ 障害者放送協議会災害時情報保障委員会報告

9月15日（金）に障害者放送協議会の災害時情報保障委員会がオンラインで開催されました。事務局を含めて9団体からの出席があり、全難聴からは小川理事と神矢理事が出席しました。

全難聴からは2019年に減災プロジェクトチームが結成し、今年度からさまざまなSNSを通じて情報発信がなされていることが報告されました。

これまでは土日祝などの情報発信や加盟協会の代表・窓口以外への情報発信が難しいところがあったが、SNSでの情報発信はそれを補うものであること、さらにSNSは不特定多数の人々に対しても情報を発信することが可能であり、難聴者・中途失聴者に対してどのような支援が必要であるかをさまざまな人々に対して伝えることができるため、今後の災害時における難聴者・中途失聴者への支援の一環として十分に活用するつもりであること等を報告しました。

今後の取り組みとしては、10月後半～11月前半に次の委員会が開催される予定であり、新しい委員長が選出される見通しとなります。

## ↑ 全国社会福祉協議会障害関係団体連絡協議会「避難生活における障害のある方の困りごとに関する研究」委員会報告

9月22日（金）に全国社会福祉協議会障害関係団体連絡協議会 令和4、5年度「避難生活における障害のある方の困りごとに関する研究」委員会第3回研究委員会が対面とオンラインのハイブリッドで開催され、全難聴からは神矢理事がオンラインで出席しました。

内容は「避難生活における障害のある方の困りごとに関する研究」アンケートに関する情報交換であり、構成団体へのヒアリングが行われました。ヒアリングはこの日は7団体から各10分の報告と5分の質疑応答がなされました。

避難生活に関する全難聴からの主な報告は次のとおりです。

- ・難聴者、中途失聴者は見た目ではわからない。話すことはできるけれど聞こえていない人がいる。そのため話しかけても反応がないため無視していると誤解されることがある。また、扉をノックされても聞こえない、こちらが扉をノックしても相手の応答がわからないといったことが発生する。
- ・情報を視覚に頼るので、避難所等で照明が暗くなるとコミュニケーションが難しくなる。また補聴器のハウリングのように、自分では気づかずに大きな音を立てることがあり、周囲からうるさいと思われるのではないかという不安を感じている。そのため避難所に行きたがらない難聴者・中途失聴者がいる。
- ・災害時に停電になるとFAXが使えないことがある。難聴者・中途失聴者にとって要約筆記者との連携は重要であり、電話の出来ない難聴者・中途失聴者がFAXが使えない場合は要約筆記者の派遣元である聴覚障害者情報提供施設や派遣センター等に連絡が出来ず、孤立につながるおそれがある。

今後あと2回他の構成団体のヒアリングがなされ、その後「避難生活における障害のある方の困りごとに関する研究」の報告書が作成される予定となります。

## ↑ ネパール支援 トリブバン大学付属教育病院（TUTH）で実施する 意思疎通支援講習会具体化へ

前回（No.182）、ご紹介した（TUTH）人工内耳専門家の Rabindra 先生を交え、SHRUTI(ネパール難聴者協会)は意思疎通支援指導カリキュラム作成に取りかかり始めました。国際部は、難聴患者のコミュニケーション能力、難聴の程度に応じた意思疎通支援対応の重要性についてアドバイスし、講習会開催に向けてバックアップしていきます。

## ↑ カナダのスティーブ・エステイ氏ご逝去

去る2005年に全難聴要員がニューヨークの国連本部で行われた国連障害者権利条約アドホック委員会に参加し、難聴者の権利を訴えた際、全難聴の主張を擁護してくださるなど、大変お世話になった方です。難聴でもあり、国際部はその後2017年ジュネーブで行われたカナダの権利条約国連審査傍聴でもお世話になりました。

そこで追悼文を下記URL（英文）に投稿しました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

<https://www.arbormemorial.ca/atlantic-dartmouth/obituaries/steven-brien-estey/109261>

## ↑ 理事・専門部の動き（9/1～9/30） ※専門部は対外的活動のみ掲載

- 9月1日 障害者等の避難誘導に係る意見交換会 ONLINE（神矢）
- 9月2日 デマント・ジャパン創立20周年記念式典（宿谷）
- 9月3日 全要研との定期協議（宿谷、宇田川、藤谷）
- 9月16日 ネパール支援プロジェクト会議 ONLINE（宮本忠、瀬谷、南、小谷野）
- 9月19日 JDF政策委員会・ミニ学習会 ハイブリッド（瀬谷、宮本忠、南、小谷野）
- 9月21日 JDF企画委員会 ONLINE（小倉）
- 9月22日 第3回障害者による情報取得利用意思疎通の法律における協議 ONLINE（黒田）
- 9月22日 「避難生活における障害のある方の困りごとに関する研究」  
第3回研究委員会 ONLINE（神矢）
- 9月26日 JDF幹事会 ONLINE（小倉）
- 9月28日 第10回移動等円滑化評価会議 ONLINE（小川）

## ↑ 10月の予定

- 10月4日 第76回障害者施策委員会 ONLINE
- 10月4日 AD国際標準化委員会本委員会 ONLINE
- 10月10日 国交省ヒアリング ONLINE
- 10月10日 JDF政策委員会 ハイブリッド
- 10月12日 常務理事会 ONLINE
- 10月14日 ネパール支援プロジェクト会議 ONLINE
- 10月17日 情報コミュニケーション4団体連絡会
- 10月19日 NHK番組検討委員会
- 10月24日 JDF幹事会 ONLINE